

# 回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

## 第2章 趣味編

### カエル

初めて打った機種、それはニューパルサー。右下段チェリー付7や、山佐型と呼ばれるリーチ目など、いくつものスロットの「基本」を作り出した言わずと知れた革命的名機である。カエルシリーズはかなり多く、ニューパルサーから始まり、ワイワイパルサー、ケロケロパルサー、ワンバクパルサー、キングパルサー、マジックパルサー、キングパルサーエース、キングオブキングパルサー、ジャイアントパルサー、そしてニューパルサーVなどといった具合にかなりの数である。そして当時ブームになったのがキングパルサー（以下キンバル）であった。

仕事の時間の合間を盗み、勤務先の事務所近くにあった日店にて気晴らしスロットをよくしていた。その日は新台2日目で、その新台がキンバルであった。スロット界に足を踏み入れるきっかけとなったカエル君、昔に比べリールはワイドになり、MAXベットボタンが装備され、そしてドット演出、ここ数年で本当に進化したものだと思えて実感していた。

どれどれ、半分以上も空台だし、ちょっと打つてみようと思いをすえた。メダルを入れ、レバーを叩くと「ケロケロ」と言う鳴き声と共にドットにはカエルが現れた。ストップボタンを押すと、カエルたちは去っていき、リール上ではただのハズレ目である。なんだこれ？と思いつつ台に貼ってあったシールを見ると、「カエルが頻繁に鳴き出したらボーナスはすぐそこ！」や、「5連続でカ

エルが鳴けばボーナス！」などと書いてあったが、全く意味不明であった。それはこのとき私はまだこの機種がストック機とは気づいていなかったからである。完全確率のレバION抽選のハズなのに、なぜ5ゲーム後にボーナスに当選することが分るんだ？もしかして、ボーナス当選してから5ゲームは特殊な制御によってボーナスが揃わない？などと考えていた覚えがある。当時はこのストック機能を理解している人が非常に少なく、私のように混乱したスロッターがたぐささんいた。キンバルが人気化したのはこれから暫くたってからで、ストック機能や内部システムが世間に出回ってからだ。

余談はさておき、そんなことはあまり気にせずとりあえずボーナスが当選するまで打つてみる。投資が1万円を突破したころ左リールがズルリとスベリ、バー絵柄が枠下へ！オレレンジを目押しし、見事にはずれる。まあ、バーが枠下にスベったのでBIGだろうとレバーを叩く。すると効果音と共に、かいかエルが現れケロケロ鳴いている。そしてBIGボーナス、配列を凝視し、リプレイハズシを考える。ハズシ手順は、最初に右リール適当押し、オレレンジが右中段に出現すれば、中・左でもオレレンジ目押し、オレレンジ中段以外は中リール適当押し、ベルテンパイなら21番のベル以外を左リールで狙う（20番がチェリーなので、チェリーベルの同時当選を防ぐため、このベルでは揃わない）。リプレイハズシは2番の7を中段か下段に押し（5番のリプレイは上にチェリーが付いているので、こちらも21番のベル同様、揃うことはない）。マアックなところでのハズシがもう1箇所存在するが、それは皆さんで探してみよう。

このように私は最初に右リールを止めて

いた。キンバルにおいて、ほとんどの方々はいつの時代も中リールから押ししていたので、このハズシ手順には若干の違和感を覚える方も少なからずいるかもしれないが、右リールではオレレンジの取りこぼしが無いため、かなり手早く、合理的だと思えるのだがいかがだろうか？

実践ではボーナスもてきばきとこなし、なかなかの技術介入要素に満足しながら、打つてみた。するとボーナスが終わって間もないというのにやらかエルが騒がしい。そしてカエルが5連続で出現してボーナス確定……。まだ20ゲームも回していないのに。そんな状態は暫く続き、二氣に二箱満タンに！そして今度は大ハマリ。800ゲームを過ぎた辺りでボーナスヒット、そして意味不明連チャン。こ、これは……、裏モノだな！迷うことなくそう思いました。もともと裏モノは打たない主義だったので、連チャンして暫く回してからやめて事務所に向かった。

キンバルパルサー山佐、2001年11月。シンブルな演出と度の過ぎない連荘で誰からも愛された。パウンドストップ初搭載。



### 技術介入

2002年初夏、チラホラ登場するストック機ではあったが、それほど人気化せず、どちらかといえばAT機が主流であった。そんな中、「不二子2（平和）」という技術介入機が発売された。プロ時代にお世話になった「ルパン三世」の後継機で、配列等やリール制御もかなり継承されていた。液晶が追加されたため、演出も多様化した。私としてはシンブルな前作のほうが好きだった。技術介入要素は、ノーマルBIG中のハズシでビタ押しが要求された。シフト持ち越し機能搭載だったので、枚数の差はかなりのものである。こういう機種がたまに登場すると、やっぱりプロとしてやっていけるかも？というも思っていた。

なんと無意味な時間をすごさなければいけないのだろうか？と思ってしまうのだ。この理由により、ストック機ではRT解除率の高いゲーム数だけを打ち、解除率の低いゲーム数は打たないといったスロッターが増え、そのことを知らない人がハイエナされ損をするという図式ができていた。このRT解除率の高いゲーム数（ゾーン）と呼ばれるようになっただけに執着して、頑なにそれ以外のゲーム数を打たなければ、設定に関係なく長い目で見れば確実に利益は得ているだろう。もちろんこの時代であれば、こういったプロも存在したのではないだろうか。私はこういったスタイルは好まず、1台を打ち切るタイプだったし待つのが嫌だったので、設定のよさそうな台をゾーン外から打つていた。

### ストック

事務所にはスロット好きな同僚が数名おり、今日の出来事を話してみる。そして初めて真実を知り、キンバルがストック機であることを理解したのであった。

ストック機と言うものはその名の通り、レバIONで当選したボーナスが一旦内部にストックされ、ある条件を満たせばその貯蓄されたボーナスが放出される仕組みであった。その条件で代表的なのがRTの解除である。ここで言うRTとはリプレイタイムのことであり、現代の5号機でよく搭載されているRTと同じ意味である。しかし、ストック機のRTと、現代のRTでは全く違う、それはストック機のRTはリプレイタイムにもかかわらず、ほとんどリプレイをほとんど取りこぼしているのだ。当選したリプレイには押し順の概念があるなど、特殊な制御が働いて結果的に取り

こぼすのである。リプレイが成立している、ボーナスよりリプレイが優先されてしまい、ボーナス絵柄が並ぶことはない。これは今現在の5号機でも体感できるハズだ。このRTが終了しない限り、ボーナスは揃わないのである。だからそれを利用して、RTゲーム数の長い短いで連チャン、ハマリを作り出すことが可能なのである。もう一つのボーナス放出契機としては、どのストック機にも共通して言えるのが「純ハズレ」の当選である（ハズレに当選というのもおかしな話なのだが）。ハズレなので、すでに成立しているボーナスを揃えることができるのだ。このストック機能により、連チャン性能が格段にアップしたのは言うまでもないが、それよりも進化したものといえば「演出」ではないだろうか。

RT解除ゲーム数が近付くにつれ、派手な演出や、連続演出が頻発したりなど、ボーナス当選ゲーム数が内部で分かっていたらばこそその液晶演出が楽しめるようになったのである。

これらのシステムさえ理解してしまえば、その知識だけで常勝も夢ではなかった。もっとも、それでも私にとってそれは受け入れがたいものだったのだが……。それはレバIONでのボーナスの引きがほとんど役に立たないからである。いくらヒキが強くても、当選したボーナスは貯蓄されてしまうのだ。ボーナス確率よりはるかに薄い純ハズレや解除特定役の当選、その確率を見たとき、全く解除する気がしなかった。もちろん解除のメインとなるのはあらかじめ決められた規定RTゲームの消化には間違いないのだが、こちらも当選するゲーム数は既に内部であらかじめ決まっていると考えると、その解除ゲーム数になるまで、

### 三重県のレベル

スロットが導入されるのが全国で最も遅かった三重県。当然だが知識や技術レベルは全国最下位だったに違いない。しかしそれは当り前前のこと。運転初心者が若葉マークをつけるのと同じで、なんと劣等感を感じることではない。しかし、インターネットの書き込みとかを見てから暫くたつてからでもかなりの蔑みようだった。下手すれば未だにそういうことが書いてあったりする。しかし事実は全くの逆であり、スロットが導入され半年ほど経過した頃にはすでに知識や技術レベルはかなりのものだった。はっきり言って、私がよく打っていた大阪や愛知に比べても遜色なく、どちらかといえば三重県のほうが勝っていたのでは？と思うほどであった。これは導入されたのをきっかけに我先にと皆が競争し、知識を身につけたり、目押しを丁寧に行ったりしていたからではないだろうか。三重県のスロットが落ち着いた頃には、再度大阪に戻っていたが、わたしが三重県の人であること知っていた周りの知人達は時折私にこう質問していた。「やっぱり三重県ってまだハズシとかは下手なんですか？」

私の答えはいつもおんなじ、「いや、みんな私くらいレベルだよ」

そうは言ってきたけれど、5号機になった現在、目押しレベルの低下は否定できない。これはもちろん全国的にそうなっているだろう。最近ちよくちよく技術介入搭載の5号機が登場してきている。なんか、予感がするんです。時代は繰り返すという予感が。

### A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学に中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。

